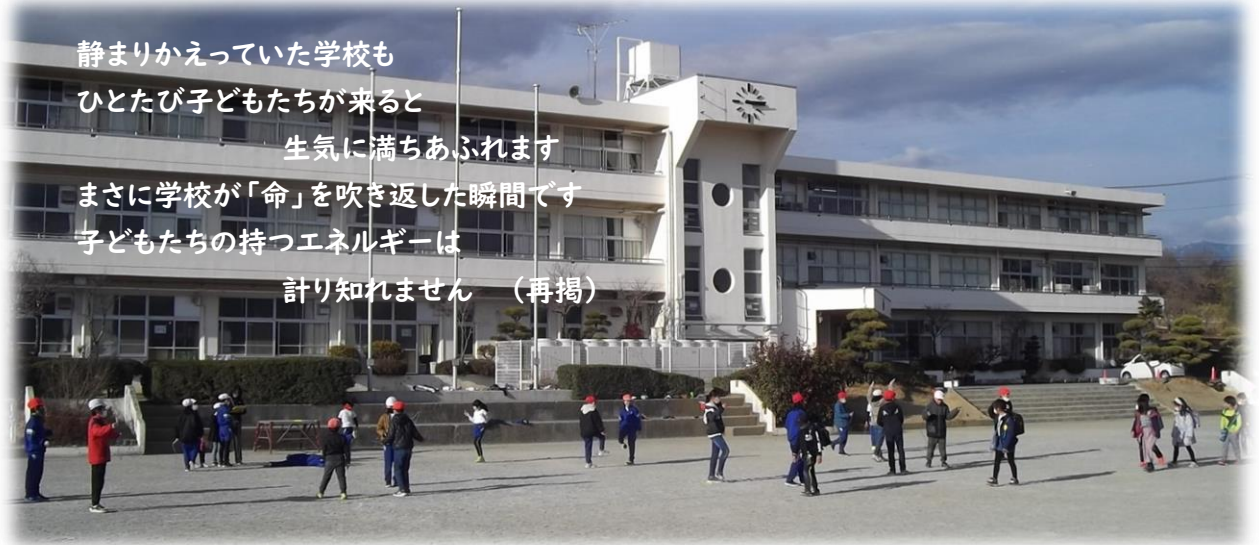




甲斐市立竜王北小学校（学校だより）

No.12 令和4年1月31日・2月1日 文責/古屋



静まりかえっていた学校も
ひとたび子どもたちが来ると
生気に満ちあふれます
まさに学校が「命」を吹き返した瞬間です
子どもたちの持つエネルギーは
計り知れません（再掲）

分散登校となりました..

新型コロナウイルス感染症オミクロン株の感染拡大が止まらない状況です。

3学期がスタートし、わずか3週間しか経っていない中ですが、県の特別要請を受け、27日より分散登校となりました。今回は夏に続く2回目ということで、子どもたちも先生たちも、混乱なく分散登校に移行しています。とはいえ、いつも顔を会わせているたくさんの友だちがいない寂しさは隠し切れません。それぞれ初日にあたる27、28日の両日には、子どもたちから「少ないね」「何だか寂しいね」といった声も聞こえてきました。毎朝、玄関で子どもたちを迎える私自身も、いつもと勝手が違う様子に少々不



思議な感じを覚えました。2週間の辛抱ですから、この間、しっかりとコロナ対策を実行していきましょう。



今回の分散登校では、これまでと違う点があります。それは、登校しない4～6年生の子どもたちの多くが、オンラインでつながる点です。今回、クロムブックを持ち帰り、登校しない日でもネットを介して授業を視聴するというのを試みます。まだまだ導入段階ですので不具合等はたくさんあるかと思いますが、今できることを確実に進め、With コロナの中で「新しい学校生活」の定着に努めていきます。どんな感じになるのか今から楽しみです。

尚、オンラインでの参加は、環境的・状況的に整っている子どもたちのみですから、全員が必ず参加するものではありませんのでご安心ください。

厳冬の中にも春が..

季節は「大寒(1/20)」を過ぎ、「立春(2/4)」を向かえようとしています。1年で最も寒さが厳しい「大寒」の頃は、確かに朝夕の冷え込みは尋常ではありませんでした。通学してくる子どもたちの吐く息の白さからも、また、田畑の霜柱からもそれをうかがい知ることができます。温暖化といえども、やはり甲府盆地の冬は「寒い！」の一言に尽きます。



ふと、アフリカ出身の本校 ALT マイケル先生の身を案じて、この寒さについて聞いてみました。すると、



「ダイジョウブ」

「ナガノケンニ イタノデ ヘイキデス」

「キモチイデスネ」

と、意外な答えが返ってきました。この寒さも四季折々の趣も、日本のよき風情なのだ、改めてマイケル先生から教えられた気がしました。

さあ、これから梅が咲き始め、春を感じられる時期となります。厳しい寒さの中にも、次第に暖かい春への変化の兆しが現れてくる頃です。日本には古くから「**三寒四温**」という言葉があります。3日間寒い日の後に4日間暖かい日が続く。寒い日ばかりではなく暖かい日もあるという、春へ向かうこれからの時期を表した言葉です。他にも次のような言葉があります。

立春にまつわる言葉として、

「**東風解凍**」..春風が氷を溶かし始める

「**黄鶯睨腕**」..うぐいすが鳴き始める

「**立春大吉**」..福をもたらす縁起のよい言葉

などがあります。その意味が趣深いです。

いよいよ2月。少しずつ春めいていく様子に、心がほんの少し躍ります。

「1月は行く 2月は逃げる 3月は去る」



御存じの方もいらっしゃると思いますが、学校ではよく使われるテッパンフレーズです。これは月日の流れの速さを表した言葉で、「1月はあっという間に行きすぎる、2月は逃げるように終わっていく、3月もあっという間に過ぎ去る」ことを、頭文字になぞらえて言ったものです。

すでに1月が終わろうとしています。ただでさえ、3学期は他の学期に比べて非常に短い学期である上に、新型コロナ・オミクロン株の猛威にさらされ、貴重な時間は否応なしに過ぎ去っていきます。まさに「**1月は行く 2月は逃げる 3月は去る**」の字の如くです。今後もコロナ禍での生活は変わらず続きますが、**時の流れに置いて行かれぬよう、また、新型コロナウイルスに翻弄されぬよう、毎日、毎時間を大切にしていきたいものです。**残された日は、1~5年生35日、6年生は32日です。(1/31現在)



学校の風景 分散登校期間

